

はるこ
青木 治子 さん
(山形町)

○プロフィール

8年ほど前、健康体操、介護施設でのボランティア活動などを幅広く行う「峰の花」を立ち上げ、高齢化社会での充実した生き方やそのための具体的方法を広める活動をしている。「峰の花」代表。



キラリ★
話題の「ひと」

体操をきっかけに、
地域支援活動へ

「峰の花」の活動は、健康体操に集まった65歳から90歳までの女性の「ばばちゃん体操」がきっかけです。当地の片峰地区の峰に咲く花のイメージからの名称です。活動は、毎週水曜日、10時から昼ごろまでで、活動場所の公民館の掃除やお茶飲み話、佐野市の歌などを歌いながらの体操、ストレッチ、フラダンスなどを行います。「認知症の勉強会」への参加やお花見、山菜採りなど、野外での活動もしています。

また、介護施設での健康体操やフラダンス体操、さのまる音頭などの披露や、芋煮会、夏祭りへの参加など、地域との交流にも積極的です。

さらにこうした活動をきっかけに、介護施設の忙しい時間帯（夕方6時〜7時）に利用者の見守りや話し相手になること、食器洗いやなどの活動も始まりました。利用者との世代も近く、苦労話や昔のことなど話が弾み、話し相手が求



「峰の花」の皆さん

められることに気付いたそうです。折り紙やお手玉作り、そしてお手玉を他の施設へ寄付するなど、活動はさらに広がりました。

介護施設利用者の方の本音は、「家で暮らしたい」ということも知れません。しかし、それが難しい状況では、こうした活動の持つ意味は大きいと思います。

「これからの高齢社会では、介護施設に入れない方も増えるので、近所での支え合い、地域のグループ活動と介護施設での結びつきが大切になる」と青木さんがおっしゃっていたことが印象的でした。
(市民記者 福田満)

市長からの
メッセージ

市長からの
メッセージ



桜の花も見ごろとなり、柔らかな日差しに心地よさを感じる季節になりました。

新しい年度を迎え、入学式、入社式など夢や希望に向かって新たなスタートを切る皆さん、程よい緊張感を持ち、常に前を向いて進んでいただきたいと思ひます。

さて、先月の市議会において、平成31年度予算を承認いただきました。一般会計のほか、各特別会計、公営企業会計です。一般会計予算は前年と比べ23億6千万円増の483億3千万円で、合併後2番目の予算規模となりました。

今年度予算は、昨年スタートした第2次総合計画を着実に進めるため、推進テーマである「定住促進」に加え、本市の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標を踏まえ、安定した仕事、新しい人の流れ、子育て、安心な暮らしを守ることを念頭に編成しました。

具体的には、東京圏から本市への移住者に対する支援事業や出流原P.Aスマートインターチェンジ整備事業、「いちご一会とちぎ国体」に向けた施設整備事業、唐沢山城跡や天明鑄物など本市の歴史文化の伝承保存事業、および田沼西地区小中一貫校整備事業やこどもクラブ施設整備事業、ならびにはしご付消防自動車整備事業などが代表的な事業として挙げられます。

また、本年度は日本女性会議2019さの大会が10月25日から27日まで開催されるほか、彦根市との親善都市提携50周年の記念事業も行われます。全国各地から多くの方々を本市を訪ねますので、本市の魅力を積極的に発信していきたいと思ひます。市民の皆さんもご協力お願いします。

花冷えの季節です。体調を崩さぬようご自愛ください。

岡部正英



佐野市生涯学習フォーラム「佐野楽」

3月2日・3日の2日間、文化会館と勤労者会館を会場に開催されました。

2日には、文星芸術大学名誉教授^{はやしかく}林香君さんによる「見えないものを見る目」をテーマにした講演や、「アート☆まちづくり」をテーマにした林さんと岡部市長の対談が行われたほか、「男女共同参画」「芸術・文化・地域資源」など6つのテーマ別に分科会が設けられ、活動されている方々の実践例の発表が行われました。

また、両日開催された「静のアート作品展」と「楽習フェア」では作品展示やワークショップ、ステージ発表が行われ、多くの方でにぎわいました。



林さんと岡部市長による対談



分科会「人生100年の健康づくり」での様子



作品展を楽しむ方々

はつうま 田沼初午祭が開催されました

3月8日～10日の3日間、毎年恒例の「初午祭」が開催され、県内外からの多くの人々でにぎわいました。

初午祭は、関東五社稲荷のひとつとして知られる一瓶塚稲荷神社で、江戸時代から300年以上続いているとされる伝統行事です。健康長寿、商売繁盛、家内安全、五穀豊穡などに御利益があるといわれており、毎年3月上旬、周辺の道路を歩行者天国にして盛大に開催されます。

地元住民には恒例、無病息災を願う、新粉を使った「しんこまんじゅう」などを楽しむ姿が見られました。

(市民記者 佐藤久夫)



○「ひ」は「ジ」と発音します

落語にある東京下町の人情話は、落語ファンならよくご存知のことでしょう。落語家の特殊な語り口調や下町なまりには、庶民の素朴な生活がにじみ出ています。なまりの主なものとしては、「ひ」がシと発音されることです。火箸がシバシとなり、飛行機がシコーキとなります。しかし、このようななまりは、東京の下町に限ったことではなく、佐野でも時折聞かれることがあります。

特に中高年者は、「ひと(人)」をシト、「ひとつ(一つ)」をシトツ、「ひとえもの(単衣物)」をシテモンのように、「ひ」がシになります。これとは反対に、布団を「しく(敷く)」はヒクともいいます。「ひ」をシと発音するのは、高齢者ぐらいでほとんど聞かれなくなりました。

○「じゅ」を「ジ」、「じゅ」を「ジ」と発音します

「じゅ」をシと発音し、「じゅ」をジと発音するその多くは、中高年者といつていいでしょう。

「シツパツ(出発)のジンビ(準備)は、ととのったケー?」
バスの待ち時間は、あとジツピン(十分)しかネーカンネー(ないからねえ)!

「じゅ」という音(拗音)は発音しにくいために、ジという音(直音)になります。この他に、「熟し柿」がズクシと発音されるように、「じゅ」がズになる場合もあります。

(市民記者 森下喜一)

佐野弁
ばんてい

本来の発音がなまって
変化したもの(その二)
ーヒはシになり、ジユはジになるー

今回の表紙 「孫太郎公園の河津桜」平成31年3月12日撮影

